

# ABA と TEACCH に基づく自閉スペクトラム症の人の コミュニケーション支援の実践研究

川島益雄

Practical study of communication support for people with ASD  
based on ABA and TEACCH

MASUO KAWASHIMA

August 15 , 2022

## 要 旨

尚恵学園デイサービスセンター「コスモス」は、定員 40 人で、生活介護を要する方々の支援をスタッフ 17 人で取り組んでいる。「コスモス」における利用者様の個別支援計画書における長期目標及び短期目標には「楽しい一日を過ごしましょう」「楽しい毎日を過ごしましょう」「メリハリのある生活を過ごしましょう」「得意なことを見つけ増やしましょう」「現在の生活を維持しましょう」などが掲げられている。10 年前に初めて個別支援計画書を目にする機会がありなぜか違和感を覚えた。数年後、研究機関の複数の研究者の個別支援計画に関する論文を読んで“目から鱗が落ちる”状態になった。論文の中に記載されている個別支援計画書には具体的な課題及び支援計画という欄が設けられており、課題として「お箸を使って食事をする」「昼食後の後片付け」「身だしなみを整える」「社会生活技能」「買い物を楽しむ」などがあった。一昨年度、「コスモス」では個別支援計画書の改定が進められた。それ以来「コスモス」における利用者様の支援は具体的な課題を短期目標に据え一つ一つの課題を達成していくという気の遠くなるような営みが必要であると考えるようになった。昨年は Y 様（26 歳、男性、知的障害）のホールに響き渡るような大声を出すという行動問題に ABA（応用行動分析学）に基づいた支援をスタッフ全員が心を一つにして取り組んだ。数ヶ月後、Y 様は穏やかな顔つきでいる時が多くなり、大声を出すという行動問題が少なくなるばかりではなく、唾吐きや自傷等の行動問題も格段と少なくなった。今回は H 様の奇声と他害（22 歳、男性、自閉スペクトラム症）を ABA（応用行動分析）と TEACCH（社会への理解を高めていくための構造化）を駆使して改善していくこうと考えた。奇声と他害をなくすという具体的な課題を短期目標に据え、どのように課題を解決していくのかについて模索していく実践研究である。

## はじめに

小学校、中学校、特別支援学校そして施設に関わって思うことは、自閉スペクトラム症(ASD)の人に必要な基本的な支援方法があまり知られていないことである。そのため、感覚過敏、強いこだわり、環境や予定の変化に対する対応の弱さ、コミュニケーションや社会性の理解の困難さなどを持つASDの人はとてもつらい思いをしながら生きていると感じている。周囲の人が、特に支援員や教員がASDの特性を理論だけではなく実践を通して身体全体で理解しないままではASDの人の困難さは増長し、自傷や他害の行動問題さらには様々な社会的問題を引き起こすものと危惧している。

そのような折、筆者は「コスモス」を利用しているH様の担当支援員となった。H様(21歳、男性、自閉スペクトラム症)は不特定の支援員に向かってしつこく声をかけたり、奇声を発したりすることが日常的に起こっていた。あまりにも度が過ぎる時には支援員が制止した。すると、支援員につかみかかり支援員の顔や手を引っ掻いたり頭を叩いたりすることが多発した。他の支援員が止めに入るとH様は部屋の片隅に行き自傷行為に至った。

多くの支援員がH様の奇声と他害の行動問題で困り果てていた時に、『施設職員ABA支援入門 村本淨司著』と『応用行動分析に基づくASDの人のコミュニケーション支援 今本繁著』という本に出会った。これらの本は、施設においてABAとTEACCHにより問題行動を軽減していく方法が細かくしかもわかりやすく記されていた。「コスモス」の支援員は2冊の本の内容を十分理解した上で、H様の奇声と他害をABAとTEACCHを駆使して改善していくと試みた実践研究である。

実践研究を始める前に、支援員にABAとTEACCHについて分かりやすく簡単に下記のように説明した。

ABAとTEACCHについて誤解を恐れずに簡単に説明します。

例えば、川島が脳梗塞で足が麻痺したとすると、車いすを作り、スロープをつくり、家庭も社会もバリアフリー化します。これが例えてみればTEACCHです。一方、再び歩けるように、とにかく必死でリハビリテーションをするのがABAです。

TEACCHは本人も努力しますが、それだけではなくシステムとして構造化するので周囲の努力が必要です。ABAは例えてみればリハビリテーションですから、歩くことを目指して大変な努力をします。社会のシステムが変わらなくても、構造化がなくとも歩くことは可能ですが、決して楽ではありませんし、多大な時間と労力が必要です。

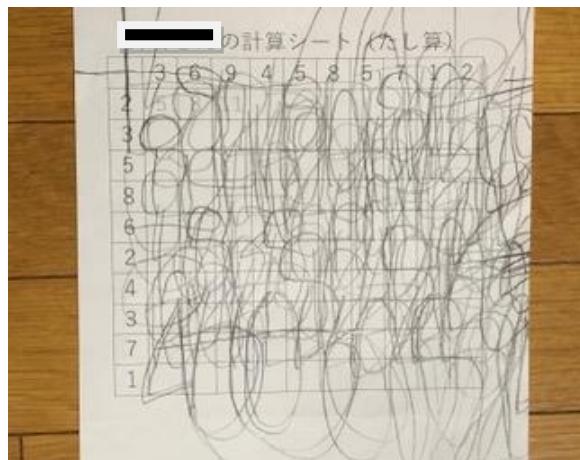
(参考文献 発達障害の知識と対応 平岩幹男)

また、H様に関しては支援員の菊地和子氏が療育を行なっていた。しかし、菊地氏に対しての奇声と他害が頻発し2ヶ月後、筆者が療育を担当することになった。

療育の目的は対象児(者)が社会に適応できるようにすることである。誤解されやすいが、療育によってASDの人の特性をすべて取り去ることではない。例えば、足が癌に侵され足を切断した場合、切断した足は戻って来ないが義足をつけて歩くことができれば日常生活で大きな困難は生じない。療育はこのような考え方をする。そのため、一人一人の状況に合わせて個別で対応することが初期の段階である。その後、小集団、集団に参加し活動していく、

最終的に社会生活を送るためのスキルを獲得していく。社会生活を送る上で習得するスキルは学業的スキルと社会的スキルと身体的スキルがある。H様は学業的スキルにおいてコミュニケーション能力を拡大し、社会的スキルとして我慢することの大切さを理解した。さらに、発達協調性運動障害が見られたので身体的スキルとして「コスモス」の運動プログラムに参加し体幹保持に努めた。

H様には、上記のような療育の経緯があることを申し添えておく。



療育を始める前はなぞり書きを続けた



療育 6 ヶ月後なぞり書きはほぼなくなった



療育は 60 分間で週 1 回実施した



運動プログラム (サーキット)

## H様に対するABAとTEACCHに基づいた支援の実際

H様のABAとTEACCHに基づいた支援をするにあたり、施設管理者の了解のもと支援員の方々に下記のように文書にて協力のお願いをし、支援員全員の方に快諾していただく。H様の保護者様にも実践内容を説明し承諾を得ている。

2022年2月3日

コスモス支援員様

H様の支援について

川島益雄

1年前の本日、つまり 2021年2月3日にY様の大声を出すという行動問題に支援員の皆様が一丸となって取り組み始めた日でした。支援員の皆様の並々ならぬ努力に応えるかのように、Y様は最近の2週間「ホールで大声を出す」という行動問題は0件となりました。今後も担当支援員を中心に今まで通りの支援を実践していきたいと考えています。

さて、昨年の利用者様の行動問題の調査で指摘されたH様の奇声と他害（22歳、男性、自閉スペクトラム症）ですが、最近、H様の行動問題で困っているとの支援員の方の声が複数聞かれるようになりました。私も日ごろ悩んでいます。そこで、H様の奇声と他害をABA（応用行動分析）とTEACCH（社会への理解を高めていくための構造化）を駆使して改善していきたいと思うようになりました。支援員の方々のご協力が得られるなら幸いです。

支援にあたって

○ABA（応用行動分析 Applied Behavior Analysis）

#### 1、行動問題を特定する

H様の行動問題は、『奇声と他害』を行動問題として取り上げたいと考えています。

#### 2、行動問題が起こりやすい状況を特定する

機能的アセスメントなどと言いますが、H様のコミュニケーション手段や好きな活動、好きな品物、好きな人、職員の配置状況、感覚の問題があるかなど支援員で細かく分析していきます。

#### 3、行動問題の働きを調べる

問題行動の働きは4つに分けられます。

①注目 ②要求 ③逃避・回避 ④感覚

行動問題の動機づけアセスメント尺度（行動問題動機づけ分析表）を作りますので、支援員全員で分析し問題行動の働きを特定しましょう。

#### 4、『行動問題』分布表を作る

行動問題をおこす時を時系列に記録し、どの時間帯が問題行動をおこすのかを見極めます。

2週間くらい調査したいです。

## 5、ABC行動観察記録表の作成

行動問題にはA（きっかけ・Antecedent）があり、B（行動・Behavior）を起こし、C（結果・Consequence）があります。例えばH様の場合 A（個別課題で自分のやりたい課題が少ない）B（支援員の顔を引っ搔こうとする）C（支援員がH様の要求に応える）などABCの記録をとります。

## 6、ABC行動観察記録表をもとに仮説を立てる

仮説の立て方としては、H様の行動問題がどのようなきっかけ、状況の時に、どのような形態で行動が起こり、どのような結果によって強化されていくかという仮説を立てます。

## 7、行動支援計画の作成

仮説をもとに行動支援計画を立てます。行動支援計画は、『H様の行動問題は何か』『行動問題の機能は何か』を記載する部分と、支援内容として『予防的支援』『望ましい行動及び代替行動への支援』『結果への支援（問題行動が起きていない時や望ましい行動が起きた時の褒め言葉）』『危機介入』の各欄がありそれぞれ該当する内容を記入していきます。

## 8、行動支援計画をもとに実践

最初の段階では、予防的支援と代替行動への支援に重点を置いて支援していきます。  
ここで重視しなければいけないことは、結果への支援を忘れないことです。

## 9、実践した結果を確認し支援方法を修正します。

実践の初期段階で、支援の効果や問題点を見つけ出し、より効果的な支援方法を見つけ出し実践していきます。

○TEACCH（社会への理解を高めていくための構造化 Treatment and Education of Autistic and related Communication handicapped CHildren)

## 1、部屋の環境調整

何に混乱し、注意散漫または不快になっているかを知る。

## 2、予定や変更の見える化

先の見通しが持てない不安を支援する。

## 3、活動の終わりの見える化

「何をどのくらいやったら終わるのか」の見通しを提示する。

#### 4、活動のやり方の見える化

「課題分析」を行ない、活動の手順を明らかにする。

#### 5、コミュニケーションの見える化

絵カードなどを使ったコミュニケーションの支援

#### 6、行動の結果の見える化

強化の法則の応用（トークンシステムと言って代用貨幣としてジュースや飴を与えたりドライブに行ったりすることは避けたいと思います。自閉スペクトラム症の方に「ほめ言葉」は機能しないこともありますが、Y様と同じようにほめることから挑戦したいと思っています。）

#### 7、ルールの見える化

特に対人場面でのふるまい方を具体的に視覚化する支援方法を考える。

5月下旬から6月中旬までにP D C Aサイクル（Plan：計画 Do：実践 Check：評価 Action：改善）の1クールは終了したいと思っています。多くの支援員の方々はH様の支援方法はどうしたらよいか構想を持っていると思います。ここで支援員全員が支援方法を検討し、H様の行動問題を消去するため、1年いや2年実践していく覚悟で努力していくと考えています。

引用・参考文献

ASD の人のコミュニケーション支援

今 本 繁

施設職員 ABA 支援入門

村 本 浩 司

### H様に対するABAに基づいた支援の実際

#### 1、行動問題を特定する

H様の行動問題は、『奇声と他害』を行動問題として取り上げる。

#### 2、行動問題が起こりやすい状況を特定する

機能的アセスメント・インタビュー（FAI）によりH様のコミュニケーション手段や好きな活動、好きな品物、好きな人、職員の配置状況、感覚の問題があるかなど支援員で細かく分析していく。

機能的アセスメント・インタビュー（F A I）

記録日 2022年2月4日

対象者氏名	H	年齢	22歳	性別	<input checked="" type="checkbox"/> 男・女	診断名	自閉スペクトラム症
記録者	川島 益雄			回答者	H様の保護者		

行動問題について

行動問題の定義 (具体的な様子)	①相手につかみかかったり引っ搔いたりする ②他人に対して自分本位に大声で話しかける（奇声も含む）
行動の頻度	①1ヶ月につき4回以上      ②1日につき5回以上
行動の持続時間	①10秒～30秒      ②1分～5分
行動の強さ	①週に1回以上の支援が必要      ②ほぼ毎日支援が必要
服薬	
医療上の問題や身体の状態	アレルギーなし
睡眠の状況	不眠なし      平均睡眠時間9時間
食事の日課と食事の内容	普通食だが食べ物によって食欲が低下する。チビチビ食べ
対象者の1日のスケジュールはどのくらい予測可能か	毎日、1日のスケジュールは自分で確認する。 日課の変更や環境の変化に不安を感じる時がある。
選択機会	個別課題の内容や量      ウォーキングのコース 余暇活動（自由時間の場所）
感覚の過敏・低反応（聴覚・臭覚・味覚・視覚・その他）	聴覚過敏 偏食があるため味覚過敏があるかもしれません。
感覚プロファイルの結果	
職員の配置状況	1対1    ·    2対1
問題行動が最も起こりやすい時間・場所・活動・人など	①個別課題や集団活動中に他人の行動や声が気になった時 ②余暇活動（自由時間）の時に特定の支援員に対して起こる
行動問題のきっかけ	①人の声や思い通りにならない時      ②気になる職員や人を見た時

次のような状況では、対象者にどのように影響しますか。(行動問題の機能の特定)	
難しい、あるいは苦手な作業や課題などをやるように提示する	個別課題のプリント提示
好みの活動を中断させる	運動プログラムで遊びの順番を変える。
予告なしのスケジュールの変更	午前や午後の集団活動で活動内容を変える。
欲しいものが手に入らない、やりたい活動ができない	余暇活動(自由時間)の場所を変える。
しばらくの間、注目されない、やりたい活動ができない	我慢できる
行動問題後に得られるうれしいことや人	自分の好きな場所に行ける (一人になれる)
行動問題の後に避けられる嫌なことや人	個別課題を最後までやらなくてもいい。 他人の声や嫌な音が聞こえなくなる。
対象者の行動特徴について	
対象者の主たるコミュニケーション方法	言語
話し言葉以外のコミュニケーション手段の有無	有り
話し言葉による指示の理解	理解できる
日課スケジュールの中で行動問題に影響を与えるもの	個別課題      集団活動      余暇活動 (自由時間)
生活用品や趣味の物などの配置について	特に配慮していない。
食べ物の好き嫌い	寿司、魚、肉が好物      野菜はあまり食べない
好きな活動や物、人	運動プログラム ウォーキング 漢字を書く 歌うこと 一人でソファーに座る
家族と接する機会や様子	家族と散歩      休日は家族と外出する
地域での活動や外出の機会	スーパーマーケット等に家族で買い物やドライブ
行動問題のこれまでの経過や、これまでの実施した支援プログラム、およびそのプログラムの効果について	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動問題に関しては、個々の職員が個々の考え方で対応していた。</li> <li>・実施した支援プログラムはなし。</li> </ul>	

### 3、行動問題の働きを調べる

行動問題の動機づけアセスメント尺度を支援員一人一人が記入し支援員全員で分析し行動問題の働きを特定する。

#### 問題行動の動機づけアセスメント尺度 (MAS : Motivation Assessment Scale)

H様の気になる行動（支援員や来所者に対して繰り返し話しかけたり奇声を発したりする行為に対して）

その行動について、以下の質問を読んで当てはまる番号に○をつけてください。

- |          |             |         |              |
|----------|-------------|---------|--------------|
| 0 全くない   | 1 ほとんどない    | 2 時々ある  | 3 ある時とない時が半々 |
| 4 たいていある | 5 ほとんどいつもある | 6 いつもある |              |

①その人は長い間一人でいるとその行動を繰り返しますか。	0・1・2・3・4・5・6
②その人は難しいことをするように指示されるとその行動をしますか。	0・1・2・3・4・5・6
③その人はあなたがその人のいる場所で、他の人と関わっているとその行動をしますか。	0・1・2・3・4・5・6
④その人は禁止されている食べ物やものを得るために、または禁止されている活動をするためにその行動をするようですか。	0・1・2・3・4・5・6
⑤その人は周りに誰もいなければ、同じ形で長時間しますか。	0・1・2・3・4・5・6
⑥その人はあなたが何かをするように指示するとその行動をしますか。	0・1・2・3・4・5・6
⑦その人はあなたが注意をそらした時に起こりますか。	0・1・2・3・4・5・6
⑧その人は好きな食べ物・もの・活動を禁止されるとその行動をしますか。	0・1・2・3・4・5・6
⑨その人はその行動をするのを楽しんでいるように見えますか。	0・1・2・3・4・5・6
⑩その人はあなたが何かさせようとするとあなたを困らせるためにその行動をしているようですか。	0・1・2・3・4・5・6
⑪その人はあなたが注目していないとその行動をするようですか。	0・1・2・3・4・5・6
⑫その人は欲しがっていたもの（おもちゃ、食べ物、活動）を与えると短い時間だけその行動がなくなりますか。	0・1・2・3・4・5・6
⑬その人はその行動をしていると周りで何があっても平気で、それに気づかないように見えますか。	0・1・2・3・4・5・6
⑭その人はあなたがその人に何かを促したり要求したりするのをやめるとすぐに（5分以内）その行動をしなくなりますか。	0・1・2・3・4・5・6
⑮その人はあなたと一緒にいてほしいためにその行動をするようですか。	0・1・2・3・4・5・6
⑯その人は思い通りにならない時にその行動をするようですか。	0・1・2・3・4・5・6

MA S集計表

	感覚	逃避	注目	要求
質問番号評定点	①	②	③	④
	⑤	⑥	⑦	⑧
	⑨	⑩	⑪	⑫
	⑬	⑭	⑮	⑯
各機能の合計点				
各機能の平均点				
順 位				

問題行動の動機づけアセスメント尺度の分析結果を下記のように支援員に報告する。

<p>2022年2月18日          コスモス支援員様          川島益雄          問題行動の動機づけアセスメントについての報告</p> <p>先日、H様の行動問題の働きを調べるということで、支援員の方々全員に行動問題動機づけ分析表をお願いしました所、多くの方が分析にご協力いただきました。ありがとうございました。結果が出ましたのでご報告致します。</p> <p>行動問題の働きについては、①感覚 ②逃避 ③注目 ④要求の4つに分けられるということはすでにお知らせしております。</p> <p>分析にご協力いただいた支援員のすべての方がH様の行動問題（繰り返し話しかけたり奇声を発したりする行為）の主な働きを「感覚機能」・「要求機能」と分析しております。今後、H様の行動問題の主な働きを「感覚機能」・「要求機能」と決定づけて、支援方法をコスモス支援員全員で検討していきたいと思っています。</p> <p>下記に「感覚機能」と「要求機能」を解説します。</p> <p>I 感覚機能          人間は暇には耐えられない生き物です。利用者は環境刺激が少ないときに自ら刺激を獲得するような行動をするのです。例えば、川島は講演会中に無意味な話しが続くときに、資料の余白に講演者の似顔絵を描くなどして自己刺激行動を行います。          一方、利用者が身体の不快な感覚を取り除く目的で行なっている場合もあります。例えば</p>
---

利用者が聴覚過敏であった場合には騒がしい場所が苦手となりやすいので近くで騒いでいる人をたたいてしまうなどの行動をしてしまいます。

H様は聴覚過敏があるため後者のケースが当てはまります。支援員の皆様も承知していると思いますが、H様が声を出している利用者様につかみかかったり、たたいたりする前の行動として「〇〇さん、うるさいです」「〇〇さん、うるさいです」と言って近くの支援員に訴えています。川島は時々、「H様もううるさいです」と言ってH様の訴えをスルーしてしまうと、H様は声を出している利用者様に近づいていき慌てて止めに行くことがあります。

## II 要求機能

もの・活動要求機能とは利用者が行動問題を行なうことにより、要求した物や活動を獲得することによって強化されることです。

①具体的な物を得ることによって行動問題が強化されること。

(H様の場合当てはまりません)

②行動問題を行なうことでやりたい活動ができたり、行きたい場所に行くことができたりすることで強化されることがあります。

(H様には当てはまりません)

それでは、H様は何を要求しているのかということです。川島は次のように考えています。H様は近くの支援員や来所者にちょっかいを出します。例えば、支援員に話しかけて自分の思うような言葉を言ってほしい 来所者を質問攻めにする などです。このことは、自閉スペクトラム症の特徴である固着現象が起きやすいということで、H様も例外ではありません。固着現象も大きな意味で要求機能とここでは定義していきたいと思います。

後日、行動支援計画に明記しますが、H様がちょっかいを出してきたときは、原則として支援員は ①すぐに離れる ②密着しない ③目を合わせない ④他の支援員に対応をお願いすることがベストではありませんがベターであると考えています。

参考文献

施設職員 ABA 支援入門

村 本 浩 司

#### 4、『行動問題』分布表を作る

行動問題をおこす時を時系列に記録し、どの時間帯が問題行動をおこすのかを見極める。スキャタープロット記録表を支援員に配布し2月9日から3月1日まで記録をお願いする。

スキャッタープロット記録表（2群間の散布図）

H様

年　　月　　日 ～　　月　　日

(行動問題)	◎ 相手につかみかかったり引っ搔いたりする レ 他人に対して自分本位に大声で話しかける（奇声も含む）
--------	---

	日 (月)	日 (火)	日 (水)	日 (木)	日 (金)	日 (土)	日 (日)
9 : 00 ～ 10 : 00							
10 : 00 ～ 11 : 00							
11 : 00 ～ 12 : 00							
12 : 00 ～ 13 : 00							
13 : 00 ～ 14 : 00							
14 : 00 ～ 15 : 00							
15 : 00 ～ 16 : 00							

スキャタープロット記録表を集計し支援員に筆者の考察を加えて報告する。

2022年3月3日

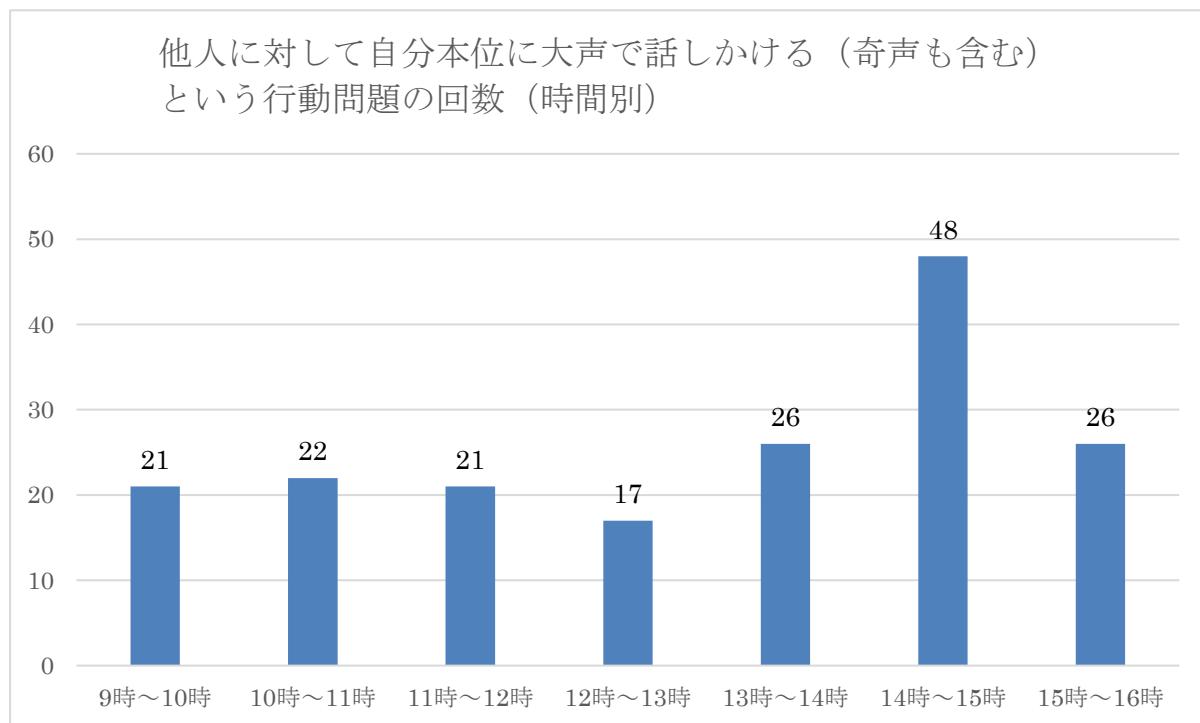
コスモス支援員様

川島益雄

### H様の『行動問題』分布表作成についての報告

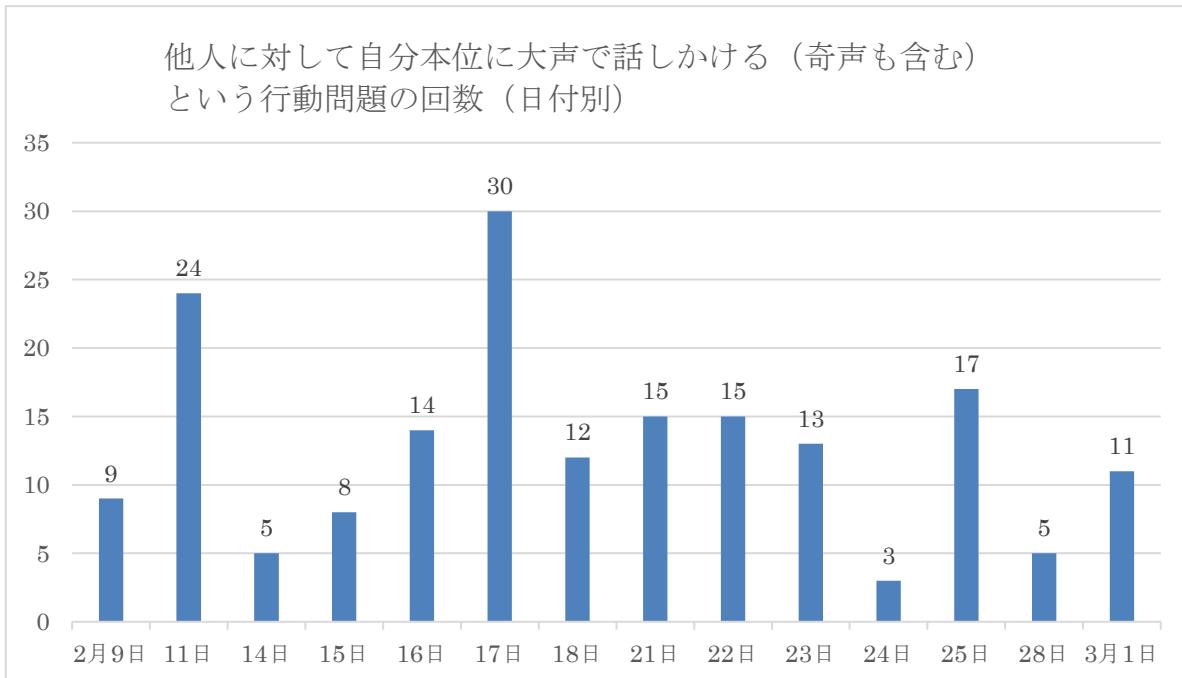
先日、H様の『行動問題』分布表作成のため、支援員の方々全員に行動問題に関する記録票をお願いしました所、多くの方にご協力いただきありがとうございました。結果が出ましたのでご報告致します。なお、報告は「行動問題の回数と時間帯の関係」と「一日における行動問題の回数比較」です。

グラフ1 行動問題の回数と時間帯の関係（14日間）



グラフでは、デイセンター「コスモス」にH様が来所してから帰宅するまで行動問題が20回以上続いていることが読み取れます。グラフでは読みとれないのですが、午前中の10時から11時までの活動の前後1時間と午後の1時30分～2時30分までの活動の前後1時間に行動問題が集中しています。さらに、ウォーキングの活動中に行動問題が集中しています。なお、H様の行動問題は特定の支援員（一人ではなく複数です）が対応する時に集中することも観察から分かっています。比較的行動問題が少ない時間帯は、作業室1の椅子に座っている時やソファーに座っている時です。

グラフ 2 一日における行動問題の回数比較



このグラフで分かることは、1日における行動問題の平均値が13回ということです。曜日によっての行動問題の出現率は変わりません。つまり、休み明けの月曜日が特に多いとか休み前の金曜日が多いとかの変化はありません。

17日(木)が30回多いのは、H様は来所前に母親を引っ搔いた後にデイセンター「コスマス」に来所し、対応した支援員に保護者の方はその旨を伝えましたが川島までには伝わらず、川島が対応策を講じることなく個別課題に取り組んだためにH様の気持ちが爆発してしまった事実があります。このように、グラフを見ると分かるように行動問題の出現が日によって上下するのはH様の心理状態に起因することが多いと考えられます。

表1 相手につかみかかったり引っ搔いたりした回数

月 日	2月 9日	2月 11日	2月 15日	2月 17日	2月 22日	3月 1日
回 数	2回	1回	1回	2回	2回	1回

#### 考察

この調査において、H様の行動問題を軽減するためには、比較的行動問題が少ない時間帯である作業室1の椅子に座っている時やソファーに座っている時の行動や心理状態を観察することの重要性が分かりました。

また、すでに配布しました機能的アセスメント・インタビューを活用しH様のコミュニケーション手段や好きな活動、好きな品物、好きな人、職員の配置状況、感覚の問題などを理解していくみたいです。

## 5、ABC行動観察記録表の作成

行動問題にはA(きっかけ・Antecedent)があり、B(行動・Behavior)を起こし、C(結果・Consequence)がある。例えばH様の場合 A(個別課題で自分のやりたい課題が少ない)B(支援員の顔を引っ搔こうとする)C(支援員がH様の要求に応える)などABCの記録を取っていく。支援人の方々に記録表を配布し、3月1日から3月16日までの2週間、観察し記録するようお願いする。

A B C行動観察記録表

対象者 H様

標的行動	支援員や来所者に対して繰り返し話しかけたり奇声を発したりする行為に対して		
行動レベル	レベル1(単発で1分以内)	レベル2(断続的で1分~5分)	レベル3(5分以上)

日時	活動状況	きっかけ	行動問題	結果	レベル
2/ 17 9: 30	記入例 来所してトイレをすまし作業室1に入り椅子に座っている	記入例 K支援員が作業室1に入室しH様に「おはよう」と声をかける	記入例 K支援員の後を追いながら、奇声を発したり繰り返し話しかけてきた	記入例 Y支援員がH様の行動を制止すると作業室1の椅子に座る	記入例 3

調査したすべての事例を提示すると問題解決の方法が見えにくくなる恐れがあるため、動機づけアセスメント調査と行動問題分布表調査の結果を重視して以下の記録表に提示した。

## A B C行動観察記録表（1）

対象者 H様

標的行動	支援員や来所者に対して繰り返し話しかけたり奇声を発したりする行為に対して		
行動レベル	レベル1（単発で1分以内）	レベル2（断続的で1分～5分）	レベル3（5分以上）

日時	活動状況	きっかけ	行動問題	結果	レベル
2/9 10:30	ウォーキング中 支援員に一方的に話しかけたり通行人に話しかけたりする。	「静かにします」と支援員が言うがH様は一方的に話しかける。3回繰り返す。	支援員につかみかかり奇声を発しながら顔を引っ搔く。	「決めるのはKさんです。」「やりません」「謝ります」と言うとH様は「ごめんなさい」と言って歩き出す。	3
2/9 10:40	ウォーキング中	散歩中のおばあさんがすれちがい、おばあさんが「こんにちは、大変ですね」とあいさつする。支援員は「いつもお世話になります」と言う。	支援員の頭を平手で5回たたきながら奇声を発する。	「やりません」と言うと静かになる。 ＊支援員が「静かに歩きます」と言ったのに、おばあさんも支援員もうるさいではないかと抗議したと思われる。	2
2/9 11:15	作業室1の椅子に座っている。	利用者O様がホールで大きな声を出している。	作業室1で支援員に奇声を発しホールに歩いていきO様につかみかかろうとする。	支援員が「やりません」と言って作業室1の椅子に座らせる。	2
2/12 15:20	作業室1で過ごすことになっているが、玄関ホールの机で、独り言を言いながら紙に漢字を書いていた。（支援員がH様の活動日程を確認せずプリントを渡した）	K支援員が「今は作業室1に行きます」と言う。	奇声を発した後、K支援員につかみかかる。その後、B支援員にもつかみかかる。	B支援員が作業室1に行くように誘導すると、作業室1の椅子に座って静かに過ごす。	2

## A B C行動観察記録表（2）

対象者 H様

標的行動	支援員や来所者に対して繰り返し話しかけたり奇声を発したりする行為に対して		
行動レベル	レベル1（単発で1分以内）	レベル2（断続的で1分～5分）	レベル3（5分以上）

日時	活動状況	きっかけ	行動問題	結果	レベル
2/17 9:20	いつもより1時間早く来所したため、活動日程が明確に示されなかつたため、日程表を何度も見ていた。	ホールでK支援員に「ウォーキングに行きます」と何度も話しかけるのでK支援員は「うるさいです」「静かにします」と言う。	K支援員に繰り返し話しかけながら、K支援員の顔を引っ搔く。	他の支援員が対応し、作業室1で過ごすように誘導する。	3
2/18 15:20	作業室1で椅子に座っている。	支援員が「もうすぐお迎えに来ますよ」と声をかける。	支援員に対して、「お迎えに来ますと2回行ってください」「でーでーでーと言つてください」としつこく迫る。	支援員は「お迎えに来ます」「お迎えに来ます」と2回言うとH様は満足して作業室1の椅子に座る。	2
3/3 15:00	支援員のゴミ捨てを手伝っている。	支援員が「ありがとう」と声かけをする。	支援員に繰り返し話しかける。	支援員がその場を離れると、作業室1の椅子に座る。	2
3/9 11:30	ホールに一人で立っている。	支援員が前を通り、目と目が合う。	支援員を追いながら繰り返し話しかける。	支援員がスタッフルームに入ると玄関ホールの椅子に座る。	1
3/19 16:30	作業室1のソファーに座っている。	支援員が「ゴミ捨てを手伝ってね」と声をかける。	ゴミ捨てを手伝いながら、支援員に「でーでーでーと言つてください」としつこく迫る。	支援員は「ゴミ捨てをやらなくともいいです」と言っても支援員を追いながら繰り返し話しかける。ゴミ捨てが終了すると作業室1に行く。	3

## 6、ABC行動観察記録表をもとに仮説を立てる

仮説の立て方としては、H様の行動問題がどのようなきっかけ、状況の時に、どのような形態で行動が起こり、どのような結果によって強化されていくかという仮説を立てる。支援員の方々に仮説について報告したものを下記に示す。

2022年3月18日

コスモス支援員様

川島益雄

### H様のABC行動観察記録表をもとに立てた仮説についての報告

先日、多くの方がABC記録表作成のために協力していただきありがとうございました。提示した事例を分析し、行動問題の少ない時間帯はH様がどの様な行動をしているのかなどを見極めながら仮説を立てました。忌憚のないご意見を頂けると幸いです。

#### 仮説1

ホールが騒がしいと感じた場合、H様は声出しをしている利用者様を叩くことにより、ホールが静かになることで維持されているのではないか。

A (きっかけ・状況)	B (行動問題)	C (結果)
・「Bさんがうるさいです」と支援員に訴えているが支援員が「我慢しなさい」と言う。	・Bさんの近くまで行きBさんを叩こうとする。	・支援員はBさんの声出しを制止しベランダに誘導することでホールが静かになる。 《感覚》

#### 仮説2

活動が終了しやることがない時に、支援員の声かけがきっかけとなって、大声を出すことで自分の要求が叶い満足することによって維持されているのではないか。

A (きっかけ・状況)	B (行動問題)	C (結果)
・支援員が「もうすぐお迎えに来ますよ」と声をかける。	・支援員に対して、「お迎えに来ますと2回行ってください」「で一でで一と言ってください」としつこく迫る。	・支援員は「お迎えに来ます」「お迎えに来ます」と2回言うとH様は満足して作業室1の椅子に座る。 《要求》

前記の仮説1・仮説2は、村本淨司著の『施設職員ABA支援入門』に従って、H様のABC行動観察記録表をもとに仮説を立てました。しかし、川島は村本淨司氏の仮説の立て方を尊重しつつ、もう一步進めて、より具体的な支援方法が分かるような仮説を立てました。

仮説1

感覚機能を満足させれば他害はなくなるだろう。

仮説2

支援員が不用意に話しかけることがなくなれば、H様は自分本位に話しかけることはなくなるだろう。（文字カードの使用）

仮説3

一人で過ごすことができる環境を提供すれば、自分本位に話しかけることはなくなるだろう。

仮説ができたら、行動問題の予防法や行動問題の代わりの行動を教えていきます。そのために、行動支援計画を立てていくわけです。近日中に行動支援計画を示します。

○行動問題の予防法としては

①環境を豊かにする

前述しましたが、すべて人は、「物がない」「やることがなくつまらない」などの環境の刺激が存在しない場合、自分自身で刺激を作りだそうとします。例えば、学生時代に授業がつまらなかつたり分からなかつたりした時、自分の爪をいじったり、教科書に落書きしたりするなど暇つぶしのための行動をしませんでしたか。みなさんも暇であることに耐えられないのです。H様にも環境を豊かにして暇な時間を作らないことです。

②スケジュールの作成

1日の自分の行動が分かるように工夫することです。

③定期的に聴覚過敏に配慮する

感覚機能の行動問題を起こさないように、あらかじめ定期的に聴覚過敏に配慮することです。

④職員の指示や日課・活動内容を工夫する

⑤視覚的な手掛けり

⑥余暇を充実させる

⑦選択肢の提示

○行動問題の代わりの行動としては

H様の誤って学習したコミュニケーションの手段と考えると、代わりのコミュニケーション方法を教え、その行動を強化していけば相対的に行動問題を減少させることができるという考えです。

## 7、行動支援計画の作成

仮説をもとに行動支援計画を作成し、支援員の方々に支援をお願いした文書を以下に示す。

2022年3月24日

コスモス支援員様

川島益雄

### H様の行動支援計画に基づいた支援についてのお願い

H様が支援員や来客者にちょっかいを出したり他害をしたりするという行動問題を消去しようと2月から取り組んできました。

- ①行動問題の把握
- ②機能的アセスメント（客観的な調査）
- ③問題行動の動機づけアセスメント
- ④行動問題分布表作成
- ⑤ABC行動観察記録表作成
- ⑥ABC行動観察記録表をもとに仮説を立てる
- ⑦行動支援計画作成

とコスモス支援員の方々に①～⑦までの項目のご協力を願いし、改正した行動支援計画を作成することができました。これから行動支援計画に基づいて、H様の支援員や来客者にちょっかいを出したり他害をしたりするという行動問題を消去していくわけですが、最優先的に予防的支援の欄の「ちょっかいを出された支援員は、すぐにその場を離れる、密着しない、目を合わせないこと。」と「エコラリア的な対応はしない。」ということを実践していきたいと考えています。特定の支援員が長時間かかわることがこれまでありました、これからはコスモス支援員が一丸となって協力し合って実践していくようにお願い致します。例えば、支援員がH様の支援中にちょっかいを出されて困っている時は、近くにいる支援員が「変わりましょうか」と声をかけ支援を交代するなどお互い様の精神で支援していきたいものです。また、絶対に無理はしないでください。「ちょっかいを出す」という行動問題を消去できなくてもあたりまえというおおらかな気持ちで対応してください。今までと同じようにちょっかいを出すことを無理に止めたり、感情的に叱ったりはしないようにお願いします。

次に、優先的に代替行動の欄の「相手の気持ちや場の空気が分からぬいため、支援員はカードを提示する」ということを実践してください。ASD（自閉スペクトラム症）の特徴でもある視覚優位の特徴を生かしていくことです。相手の気持ちや場の空気が読めるようになるということを教えることは時間と手間がかかります。支援員の方は自分なりにカードを作成し効果があったカードは必ず共有してください。

最後になりますが、「結果への支援」の欄の強化子を提示することも忘れずに行ってください。

褒め言葉やハイタッチなどそれぞれの支援員が独自で工夫してお願いします。強化子は「みんなちがってそれでいい」という考え方です。

まずは1ヶ月間、上記の3点について、コスモス支援員が一丸となってH様の支援をお願いします。他の利用者様の支援と並行して行ないますのでご負担をおかけしますがご協力を切にお願い致します。

## 行 動 支 援 計 画

利用者 H様

記録者 川島益雄

記入日 2022年3月16日

行動問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>他人に対して自分本位に大声で話しかけたり奇声を発したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手につかみかかったり引っ搔いたりする。</li> </ul>
推定される行動問題の機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>要求</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感覚</li> </ul>
予防的支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>①エコラリア的な対応はしない。 H様：「お昼はかつ丼です」 支援員：「お昼はかつ丼だね」</li> <li>②指示は2回繰り返さない。 指示をした後、支援員は確認のため指示を繰り返すことが多いので意識してやめる。</li> <li>③ちょっとかいを出された支援員は、すぐにその場を離れる、密着しない、目を合わせないこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①できるだけ施設内では利用者様に大声を出させない。</li> <li>②安心して過ごせる場所を提供する。</li> <li>③ちょっとかいを出された支援員は、すぐにその場を離れる、密着しない、目を合わせないこと。 (無理に対応しないで、他の支援員に対応をまかせる)</li> </ul>
望ましい行動・代替行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面に合った望ましい行動を支援する。</li> <li>場面に合った話し方をする。</li> <li>活動等の最初と最後は挨拶をする。 (けじめをつける)</li> <li>運動プログラムではリーダーの指示に従うようとする。 (不快刺激を与える)</li> <li>個別課題では不快刺激を与えることで我慢することを身につけさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「うるさいです」とサインを出したらすぐに対応する。</li> <li>②声を出している利用者様から距離をおく ※「H様もうるさいです」と言うことは禁句</li> </ul>

	<p>②要求を獲得するための代替行動を教える。</p> <p>相手の気持ちや場の空気が分からなかったため、支援員はカードを提示する。</p> <p>「うるさいので困ります」</p> <p>「静かにします」</p> <p>「川島さんが決めます」</p> <p>「迷惑です」 etc</p>	
結果への支援	<p>①望ましい行動や代替行動などをした際に強化子を提示する。</p> <p>ハイタッチ 褒め言葉</p> <p>②作業室 1 で静かに過ごせたら支援員と大好きな歌を歌う機会を提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>我慢することができたら、褒め言葉と共に、安心して過ごせる場所を提供する。</li> </ul>
危機介入	<ul style="list-style-type: none"> <li>攻撃行動や本人が激しく興奮している場合は別の部屋に誘導する。</li> <li>近くにいる支援員に応援を頼む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>攻撃行動や本人が激しく興奮している場合は別の部屋に誘導する。</li> <li>近くにいる支援員に応援を頼む。</li> </ul>

## 8、行動支援計画をもとに実践

初期の段階では、予防的支援と代替行動への支援に重点を置いて支援を行なった。特に予防的支援の①エコラリア的な対応はしない。②指示は2回繰り返さない。③ちょっとかいを出された支援員は、すぐにその場を離れる、密着しない、目を合わせないと。について徹底して実践していった。しかし、支援員の中にはエコラリア的な対応を頻繁にしたり、指示を続けて出してしまったりすることがあった。ちょっとかいを出された支援員はすぐにその場を離れるについても、熱心な支援員ほどH様と対峙してしまう傾向があった。なにはともあれ、行動支援計画に基づいて実践が開始された。初日、支援員同士で声を掛け合い、ちょっとかいを出された支援員に他の支援員が駆け寄る様子や行動支援計画をポシェットにしたため何度も確認しながらH様の支援にあたっている様子を目のあたりにした筆者は目頭を熱くした。さらに、支援員の方々にお願いしたのは結果への支援を忘れないで実行してもらうことであった。

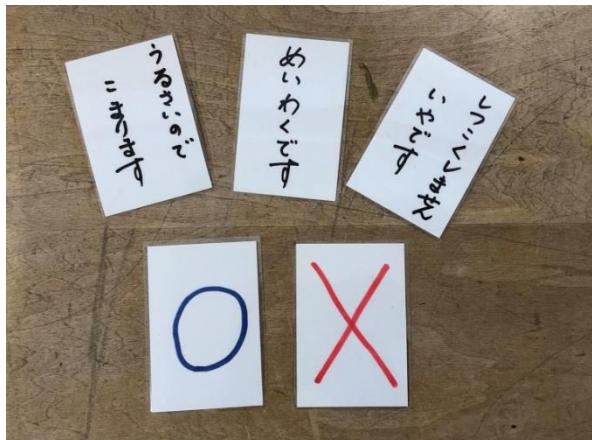
1週間後、望ましい行動・代替行動についても支援をお願いした。①場面に合った望ましい行動を支援する。については主に筆者と小幡支援員が担当し、活動時に不快刺激を与えどのように行動したらいいかを体験を通して一つ一つ理解していく方法をとった。他の支援員の方々は、H様をはじめ聴覚過敏の利用者様のため施設内ではできるだけ静寂な環境を保とうと努力している姿が施設内のあちこちで見られるようになった。②要求を獲得するための代替行動を教える。については支援員全員に相手の気持ちを表す文言を書いたカード数枚を配布しできるだけ視覚に訴えるようにした。



安心して過ごせる場所を提供する



小幡支援員と大好きな歌を聴く・歌う



気持ちを表す文言を書いたカード  
○×カード



騒いだ時に支援員が提示したカードを  
読んでいるH様



個別課題の時に不快刺激を与える



運動プログラムの時に不快刺激を受けた  
後、気を取り直しニコニコ顔のH様

## H様に対する TEACCH に基づいた支援の実際

3月16日より行動支援計画に基づいて実践している。初めの頃は多少混乱もしたが軌道に乗ったところで、4月からは TEACCH に基づいた支援を ABA に基づいた支援と並行して行なうことを支援員の方々にお願いした。TEACCH に基づいた支援を実践する前に「ASD の人の支援の 6つのポイント」として下記のような文書を配布した。

### ASD（自閉スペクトラム症）の人の支援のポイント

TEACCH を実践するに当たり、TEACCH と ASD の関係について説明します。TEACCH の三つ目の A は autistic であり自閉スペクトラム症を表しています。また、四つ目の C は related communication handicapped でありコミュニケーション行動に遅れとアンバランスが見られる人を表しています。雑駁な言い方をすると TEACCH は自閉スペクトラム症の方に対する指導方法または支援方法です。

コスモスの利用者様は自閉スペクトラム症と思われる方が多くいます。この機会に TEACCH について理解を深めていきたいと思っています。

### ASD の人の支援の 6つのポイント

#### ①対象者の視点で考える

ASD の人は物の感じ方が ASD でない人と違うので、ASD でない人の価値観を押し付けられると苦痛に感じられます。

- ・周囲の音や雜踏、目に入る物に魅了されたり、匂いや物の感触が気になったり、周囲の感覚刺激を不快に感じることが多い。
- ・予定や活動の見通しがつかないことに不安になる。
- ・対人面ではあいまいな指示や暗黙の了解は混乱する。

#### 例 1

「あっちにいって」と言われても、「あっち」とはどこなのか理解できないし、「いって」とは行っていいのか悪いのか理解できない。この時に「作業室 1 の椅子に座ってください。」と言うと理解できる確率は上がります。

#### 例 2

「うるさいです」と言われても、“自分はうるさく感じないのでなあ”と思ってしまします。こんな時は

「うるさくしていると川島さんは困ります。連絡帳が書けません。」  
と言うと理解できる確率は上がります。

## ②将来に対する自立を重視する

自分の子どもに対して、いや、すべての子どもに対して、大人になった時に困らないようにと育てるに異論を唱える人はいないでしょう。発達心理学者エリクソンの唱えた発達課題を一つ一つ達成しながら人間は成長し、自分自身で色々なことに取り組んでいくようになっていくことを期待するのが普通です。しかし、ASDの子どもの場合、自然にそうなることを期待することがむずかしいのです。

そこで、人に何かを要求したり、拒否したり、援助を求めたり、人のコミュニケーションを取って適切に依存できるように支援していくことが自立のもう一つの形と考えることが大切だと思っています。

## ③ASDの方と周囲の人の幸福を考える

ASDの人と周囲の人がどちらも生きにくい社会であってはいけません。障害のある人もない人も共生できる社会でなくてはなりません。しかし、尚恵学園前理事長の住田恵孝氏が1960年頃に唱えた尚恵学園の理念「共生」も、1665年に近江学園、びわこ学園の創設者の糸賀一雄氏が「この子らに世の光を」ではなく「この子らを世の光に」と唱えたことがいまだに日本の社会において理想通りにはいかないのです。

例えば、母親とASDの子どもが神立の街を歩いていたときに迷子になってしまったとします。子どもはお腹がすいたので近くのコンビニに駆け寄り棚にあるお菓子を食べてしまします。店主はその子を保護し交番に連絡します。来店したおまわりさんは駆け付けた母親に指導します。母親は今後このようなことがないように外出を控えました。この場合、母親は子どもに対する不安と世間的に恥ずかしい思いをしました。お店にも迷惑をかけてしまったと責めを受けます。お店も実害を被ったことになります。一方、子どもも幸せな生活をする上で行動の制限を課せられました。

このように、子どもの外出の自由が保障される代わりに、保護者がつらい思いをしたり地域の人に実害が及んだりしてもかまわないということはありません。私達支援員は、どちらもwin winの関係をどうしたら作れるかを考えなければなりません。

## ④徹底的に環境の変更を促す

この部分が今回取り組んでいきたいTEACCHの実践です。上記の

- |                  |               |
|------------------|---------------|
| 1、部屋の環境調整        | 2、予定や変更の見える化  |
| 3、活動の終わりの見える化    | 4、活動のやり方の見える化 |
| 5、コミュニケーションの見える化 | 6、行動の結果の見える化  |
| 7、ルールの見える化       |               |

の7項目について実践することでH様の行動変容を生む環境作りが実現するのです。

## ⑤できないことは誰かに助けを求める

広義的には、保護者だけに負担を押し付けたり福祉事業所が無理な支援をおこなったりしてはいけません。家庭、福祉、医療、専門家同士の連携が必要です。当然の事ですが、私が言いたいのは狭義的な部分のことです。

例えば、川島がH様にしつこく話しかけられて困っている時に小幡支援員や遠藤支援員はすぐに駆けつけて対応してくれます。また、川島にH様が興奮し襲いかかろうとしている

る時は、声かけに応じ安藤支援員がすぐに駆けつけ対応してくれます。川島は困った時にはすぐに助けを求める。我慢して無理な対応をしてはお互いが不幸になると思います。「できないことは誰かに助けを求める」この精神で支援に当たっていただきたいと思っています。

#### ⑥実践の確認と改善

ABAに基づいた支援で述べたとおりです。

参考・引用文献 ASD の人のコミュニケーション支援 今 本 繁  
文責 川 島 益 雄

### 1、部屋の環境調整

H様が何に混乱し、注意散漫または不快になっているかを知るために下記のように文書で調査をお願いした。

2022年4月6日

コスモス支援員様

川 島 益 雄

#### H様の TEACCH に基づいた支援（部屋の環境調整）についてのお願い

H様をはじめ ASD の人は、周囲の刺激や環境に注意散漫になったり不快になって混乱したりすることがあります。たとえば、ホールや作業室の掲示物の文字や絵、記号に見入ったり取り外したりすることがあります。支援員同士の会話に注意を奪われる。人の動きに混乱し近くの人をたたく。シャンプーの匂いが気になって他人の頭を嗅ぎに行く。柔らかい毛の感触が気になつていつまでも触る。このような状態になると人からの重要なメッセージを受け取ることが困難になり、「理解のコミュニケーション」を妨げてしまいます。周囲の刺激に混乱し、注意散漫になって理解を妨げることを予防するために環境調整の支援が必要です。

支援を効果的に進めるために、まずはH様が何に混乱し、注意散漫になっているのかをアセスメント（客観的評価・分析）します。ASD の人が不快や注意散漫になりやすい感覚刺激は、温度や湿度、音、匂い、感触、光、人の動きなどです。また、場所や位置、特定の物事にこだわりを持っている人もいます。そういう感覚刺激やこだわりの特性をH様に対しても具体的に上げることが大切です。

H様の特性を把握するために「環境設定を考える上での ASD の人の特性アセスメント表」を配布致しますのでご協力いただければ幸いです。4月13日(水)までに提出してください。

環境設定を考える上での ASD の人の特性アセスメント表

対象者 H様

記入者

2022年4月 日

項目		評価
注意散漫・不快刺激除去	まわりにある物や刺激に注意を奪われ、接近したり触ったりする	
	周囲の人の声、動き、目線などが気になり動きが低下する または活発化する	
	人と関わるのが苦手、あるいは不適切な関わりが多い	
	見えるもの、音、触れる物、匂いなどに注意が奪われる	
	広い空間だと動き回る、走り回る	
	注意や興味が短時間で移り変わっていく	
	衝動的で見える物にすぐ反応する	
	物や刺激が多いと混乱する	
	部屋は比較的シンプルで物がない状態を好む	
	狭く、閉じた空間だと落ち着いている	
	注意の範囲が狭く、合図に注目しにくい	
場所と境界の明確化	活動場所がいつも違うと混乱したり、不穏になったりする	
	物の位置がいつもと変わると元の戻そうとする、不機嫌になる	
	情報や刺激を整理したり、まとめたりするのが苦手	
	車や椅子などで座る位置にこだわる	
	ある特定の場所で特定の活動をする傾向がある	
	自分と他の人がやっていることが違うと混乱する	
	境界線やマット、輪などが場所の境界として機能する	
	こだわっているものから別の活動に切り替えが難しい	
	どこで何をすればいいかわからず部屋を動き回る	
	初めての場所だとあちこち見て回って確認行動が多い	
ルティナイ化	作業や活動の手順をおぼえて実行するのが苦手	
	行動の流れがなかなか定着しない	
	活動の流れが一定方向だと習慣化しやすい	
	いつも同じように繰り返す儀式的行動がある	
	物を順番に並べるとその通りに実行しやすい	
	順番通りに物事を進めることを好む	
	数字の並びや物の配列にこだわる	
	活動の流れが習慣化すると次にやることがわかりやすい	

評価記号： ◎非常に当てはまる ○よく当てはまる △半分くらい当てはまる ×当てはまらない

2022年4月14日

コスモス支援員様

川島益雄

### H様のTEACCHに基づいた支援（部屋の環境調整）についての報告

先日、H様の「環境設定を考える上でのASDの人の特性アセスメント表」作成のための調査に多くの方が協力していただきありがとうございました。別紙のとおり報告致します。評価は調査された方々のもっとも多い評価記号を記入しています。また、赤字の項目は調査したほとんどの支援員の方が調査記号◎をつけた所です。

#### (考 察)

##### 1、不快・注意散漫を招く刺激の除去

- ・まわりにある物や刺激に注意を奪われ、接近したり触ったりする
- ・周囲の人の声、動き、目線などが気になり動きが低下する または活発化する
- ・狭く、閉じた空間だと落ち着いている

H様に対して、それぞれの活動場所において、注意散漫になるものや不快な刺激を除去するようにしたいものです。例えば、部屋の中はできるだけシンプルにします。不必要なものは極力置かないことです。壁もできるだけ絵やイラストなど掲示しないようにしたいです。また、部屋にはベースを設けて、H様の大好きなソファー等を置いてゆったりできる空間を作つてあげることが大切だと考えています。

##### 2、活動場所と境界の明確化

- ・活動場所がいつも違うと混乱したり、不穏になったりする
  - ・こだわっているものから別の活動に切り替えが難しい
- 個別課題の場所、休憩の場所、作業の場所、食事の場所、クールダウンの場所（H様の場合はトイレが有効です）など別にすることが有効と思われます。

##### 3、ルーティン化しやすい物の配置

- ・活動の流れが一定方向だと習慣化しやすい
- ・物を順番に並べるとその通りに実行しやすい
- ・順番通りに物事を進めることを好む

H様に対して、支援員は行動の流れや動線をいつも考えて行動することが大切です。支援員によって対応の仕方が変わってはH様が混乱するばかりです。毎日毎日が決まった流れで、決まったリズムで過ごせるように考えていきたいものです。例えば、来所時1朝のあいさつ2検温3消毒4玄関ホールベース5連絡帳を支援員に渡す6椅子に座つて検温7トイレ8午前中の活動等です。この動線を崩さずに実行していくべきは安心すると思っています。その他にも一つ一つ動線を検討していきましょう。

★最後にもう一度、ASDの方にはゆったりできる空間（居場所）が必要です。

## 別紙

## 環境設定を考える上での ASD の人の特性アセスメント表

対象者 H様

記入者

2022 年 4 月 14 日

項 目		評価
注意散漫・不快刺激除去	まわりにある物や刺激に注意を奪われ、接近したり触ったりする	◎
	周囲の人の声、動き、目線などが気になり動きが低下する または活発化する	◎
	人と関わるのが苦手、あるいは不適切な関わりが多い	○
	見えるもの、音、触れる物、匂いなどに注意が奪われる	○
	広い空間だと動き回る、走り回る	×
	注意や興味が短時間で移り変わっていく	△
	衝動的で見える物にすぐ反応する	△
	物や刺激が多いと混乱する	△
	部屋は比較的シンプルで物がない状態を好む	○
	狭く、閉じた空間だと落ち着いている	◎
場所と境界の明確化	注意の範囲が狭く、合図に注目しにくい	△
	活動場所がいつも違うと混乱したり、不穏になったりする	◎
	物の位置がいつもと変わると元の戻そうとする、不機嫌になる	○
	情報や刺激を整理したり、まとめたりするのが苦手	◎
	車や椅子などで座る位置にこだわる	○
	ある特定の場所で特定の活動をする傾向がある	○
	自分と他の人がやっていることが違うと混乱する	×
	境界線やマット、輪などが場所の境界として機能する	△
	こだわっているものから別の活動に切り替えが難しい	◎
	どこで何をすればいいかわからず部屋を動き回る	△
ルティナイゼーション	初めての場所だとあちこち見て回って確認行動が多い	×
	作業や活動の手順をおぼえて実行するのが苦手	×
	行動の流れがなかなか定着しない	×
	活動の流れが一定方向だと習慣化しやすい	◎
	いつも同じように繰り返す儀式的行動がある	◎
	物を順番に並べるとその通りに実行しやすい	◎
	順番通りに物事を進めることが好む	◎
	数字の並びや物の配列にこだわる	◎
	活動の流れが習慣化すると次にやることがわかりやすい	◎

評価記号： ◎非常に当てはまる ○よく当てはまる △半分くらい当てはまる ×当てはまらない

## 部屋の環境調整の実践



玄関ホール脇のブース  
(ここを起点に活動している)



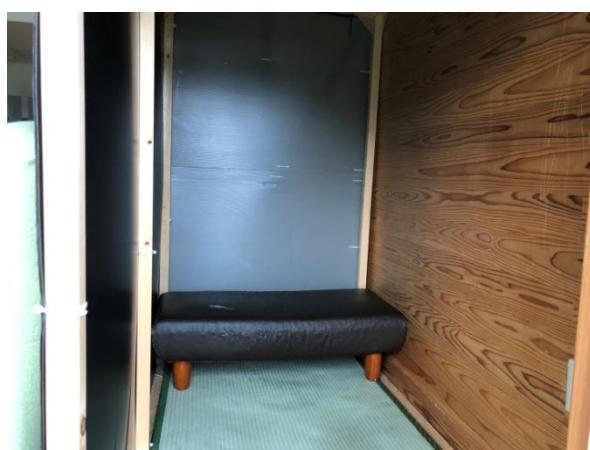
個別課題（療育）の机



音楽を楽しむ時や休憩時に使用する椅子



休憩時や夕方おむかえを待つ時に使用



視界を遮り、生活音も軽減するブース  
(H様は嫌がって使用しなかった)



いらいらしたり我慢したりするときは  
広いスペースのトイレを使用する

★H様がルーティン化しやすいように配置を工夫した。

## 2、予定や変更の見える化

H様に対してスケジュールで提示する視覚的合図を何にするかについては、筆者がH様の療育（コスマスでは療育等を含めた作業的学習を個別課題という）を担当しているので療育の時に調査した。下記のように支援員の方々にお願いした。

2022年4月21日

コスマス支援員様

川島 益雄

### H様のTEACCHに基づいた支援（予定や変更の見える化）についてのお願い

先日は、H様の部屋の環境調整についてご協力いただきありがとうございました。皆様もご承知の通り、1 不快・注意散漫を招く刺激の除去 2 活動場所と境界の明確化に関しては十分ではないですが試験的に実践しているところです。3 ルーティン化に関しては予定や変更の見える化と並行して実践していきたいと考えています。

さて、予定や変更の見える化についてですが、H様をはじめASDの人は、予定の変更や新しい予定、先の見通しが持てないことに不安を示すことがあります。不安の表れ方は「次に何があるの」「今日は個別課題をやります」「明日は運動プログラムをやりたいの」と何度も話しかけたり、自傷したり、人を叩くなど様々です。H様の場合、一部こだわりになっているところもありますが根底には不安の表れがあると思っています。

ASDの人にとって、先の見通しが持てないことや急な予定の変更が、行動問題を引き起こすきっかけになっていることが多いのです。そこで、一日の予定や週単位、月単位のスケジュールを視覚的に予告してあげるとこれらの行動問題が緩和されます。先ずは、H様に合った日課を組み立て、視覚的に提示することから始めたいと考えています。

支援員の方々にお願いしたいことは、H様に効果的に予定を提示するためにはどの様にすればよいかのアセスメントです。よろしくお願いします。

#### アセスメント

- 1 スケジュールで提示する視覚的合図を何にするか
- 2 どのくらいの長さを提示するか
- 3 スケジュールの形態をどうするか
- 4 スケジュールの操作の仕方をどうするか

#### 1 スケジュールで提示する視覚的合図を何にするか

理解の視覚的モードアセスメントで個別課題の時に川島が実施しました。

- ・具体物の理解

具体物と具体物のマッチングはクリアーしました。

・写真の理解

写真と具体物のマッチングはクリアーしました。

・イラストの理解

イラストと具体物のマッチングはクリアーしました。

・線画の理解

線画と具体物のマッチングはクリアーしました。

・文字の理解

文字と具体物のマッチングはクリアーしました。

・文章の理解

文章と具体物のマッチングはクリアーしました。

\* 文章理解のアセスメントの補足説明

「せんたくばさみを 2 こください」「ミニカーをはしらせる」「えんぴつを 1 本ください」「スプーンとフォークをください」と書いた文章カードを提示し、10 秒以内に実行できるかというアセスメント

のことから、H 様の場合スケジュールで使用する視覚的合図の種類として文字や文章を使用することが効果的であると考えられます。

2 どのくらいの長さを提示するか

- ①次の行動を示す文字カードを 1 枚ずつ提示するやり方
- ②半日の行動を文字カードで提示するやり方
- ③1 日の行動を文字カードで提示するやり方（施設に来て帰るまで）
- ④全日の行動を文字カードで提示するやり方（起きてから寝るまで）
- ⑤週単位、月単位を文字カードで提示するやり方

H 様の場合、①～⑤のどのくらいの長さを提示することが良いのかを支援員の方でアセスメントして頂きたいと思っています。H 様の場合、①はカードの意味を教える段階ですのでクリアーしています。③の段階は 2 年前頃ホワイトボードに文字を書いて提示していましたが実施した職員が途中でやめてしまった経緯があります。

3 スケジュールの形態をどうするか

- ①掲示場所を固定型にするか携帯型にするか。

スケジュールボードをブースに掲示するか、スケジュールバインダーを持ち歩くかです。

スケジュールバインダーは B5 判のリングバインダーを使うことが多いです。小学校の特別支援学級ではスケジュールバインダーを使用している姿目にします。バインダーの最上部には「いますること」という枠があり、小さい子どもには今やらなくてはならないことが分かるので便利です。H 様には必要ないかもしれません。

- ②掲示方向を上から下にするか、左から右にするか。

#### 4 スケジュールの操作の仕方をどうするか

活動が終わったら、文字カードをはずして箱に収納するやり方や文字カードの隣に○と×のカードを貼っていくやり方などがあります。最終的には、活動を文章で表現した「文章リスト」をA4判の用紙に印刷し、自分でチェックしていくやり方がベストです。

\*スケジュールボードに戻ることやそれぞれの場所に移動できない時は、支援員の方は「移動カード」を使うことをお願いします。また、予定の変更にも慣れるようにしたいです。

支援員の方々と検討した結果、スケジュールボードをベース内に提示し、文字カードで提示することにした。提示の長さは支援員が把握できる範囲で実施することにした。つまり、1日の行動を文字カードで提示するやり方（施設に来て帰るまで）に決定した。スケジュールの操作は、活動が終わったら文字カードをはずして箱に収納するやり方がベストとの結論が出たが、毎朝、支援員がスケジュールボードに文字カードをセットすることは煩雑になりやすいとの意見が出たため、活動が終わったらピンクのマグネットを文字カードの脇に張り付ける方法をとった。活動の変更は黄色の文字で表示すると納得して行動した。

#### 予定や変更の見える化の実践



1日のスケジュールを文字で提示



終了したらマグネットをつける



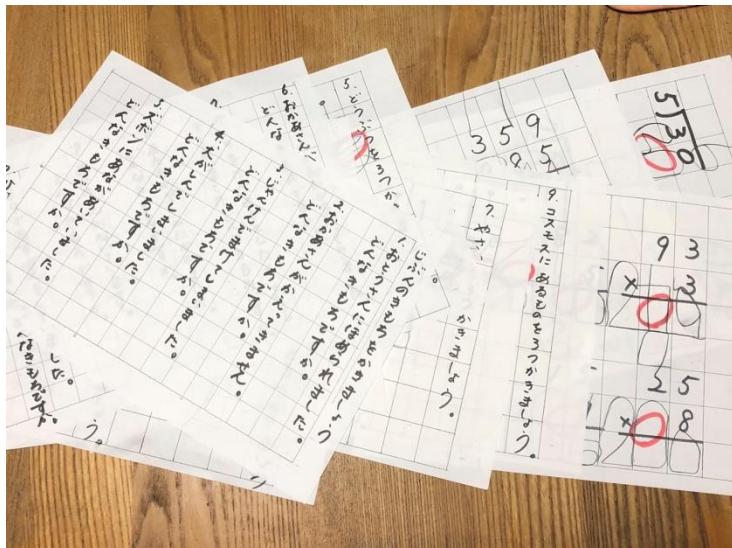
活動の変更は黄色の文字で表示

### 3、活動の終わりの見える化

物がなくなることで活動の終わりを伝える方法をとった。

個別課題ではあいさつをした後、プリントを渡し今日やる課題を確認後、自らプリントを選んで作業・学習を行った。プリントがなくなれば活動の終わりということにした。運動プログラムは、活動過程ができるだけルーティン化し 運動器具や集中課題の用具、音響器具等がなくなることで活動の終わりを分かるように心掛けた。また、トイレで使うトイレットペーパーについても適量使用できるように、トイレットペーパーの1回分の使用量を提供した。

後で述べるが、活動の終わりの見える化は受注作業が最高の学習場面と筆者は思っているので受注作業の導入を待ちたい。



個別課題のプリント



1回分のトイレットペーパー

## PDCAサイクルを駆使した支援の終了(1 クール)

TEACCHに基づいた支援について、当初は 1 部屋の環境調整 2 予定や変更の見える化 3 活動の終わりの見える化 4 活動のやり方の見える化 5 コミュニケーションの見える化 6 行動の結果の見える化 7 ルールの見える化を予定したが、1 部屋の環境調整 2 予定や変更の見える化 6 行動の結果の見える化を実践した結果予想以上の成果を上げることができた。

現在、3 活動の終わりの見える化 4 活動のやり方の見える化 5 コミュニケーションの見える化そして、7 ルールの見える化はウォーキングや個別課題、運動プログラムで一部の支援員が実践している。コスモスでは近い将来、受注作業を再び活動に取り入れていく見込みである。受注作業がコスモス内で実現できれば、ワークシステムをはじめ 3 活動の終わりの見える化 4 活動のやり方の見える化 5 コミュニケーションの見える化 7 ルールの見える化についてすべての支援員が一丸となって取り組めるはずである。その時まで、実践は待とうと思っている。

下記に示したように中間報告をした後、約 1 カ月間、再度、ABA による行動支援計画に基づいた支援と TEACCHに基づいた支援(1 部屋の環境調整 2 予定や変更の見える化 6 行動の結果の見える化)を行なってきた。H様の行動問題は皆無になったとは言えないがそれに近い状態になってきた。

2022 年 6 月 22 日

コスモス支援員様

川 島 益 雄

H様の行動支援計画と TEACCH に基づいた支援についての中間報告とお願い

2022 年 3 月 24 日より、H様の ABA による行動支援計画に基づいた支援をコスモス支援員の皆様にお願いしてから約 3 ヶ月が過ぎました。並行して、TEACCH に基づいた支援をお願いしてから約 2 ヶ月が過ぎました。

コスモス支援員の一人一人の方々が行動支援計画に基づいた支援を一丸となって実践している姿にはただただ頭が下がる思いです。特に、予防的支援 3 項目と代替行動としてのカード提示の実践をしました。さらに望ましい行動として個別課題と運動プログラムにおいて不快刺激を与える（我慢することの学習）という実践もしました。H様は確実に変わってきました。

1 ヶ月後、行動支援計画に基づいた支援と並行して TEACCH に基づいた支援を行い、部屋の環境調整と予定や変更の見える化を実践してきました。予定や変更の見える化として、H様のベース内にホワイトボードを設置し 1 日の流れを明確に提示し本人がボードに従って行動するという取り組みをしました。H様の行動は劇的に変化しました。これらは、コスモス支援員の

一人一人の方々の地道な支援の成果だと確信しています。感謝申し上げます。

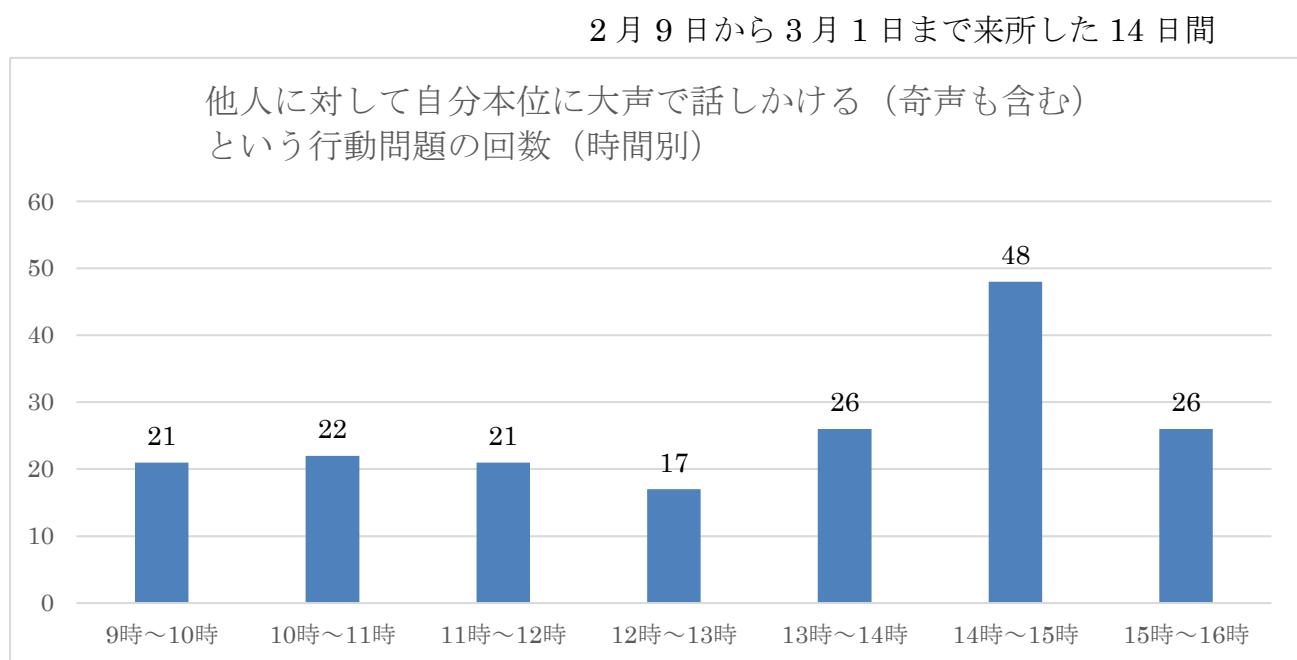
別紙に ABA による行動支援計画に基づいた支援と TEACCH に基づいた支援を行なう前の H様の行動問題の様子と支援を実施した約 3 ヶ月後の H様の行動問題の様子をグラフに示しました。14 日間で 181 回の行動問題があった H様が約 3 カ月後には 14 日間で行動問題が 2 回となりました。5 月 30 日の行動問題は H様をお迎えに来た保護者の方に対して玄関で自分本位に大声で話しかけるという行動問題を起こしました。6 月 8 日は川島に対してしつこくまわりつき大声で話しかけるという行動問題を起こしましたが、渡邊支援員がカードを H様に提示することですぐに收まりました。

今後も、H様の行動問題がなくなるまで、コスマス支援員の方々に行動支援計画に基づいた支援と TEACCH に基づいた支援を引き続きお願い申し上げます。

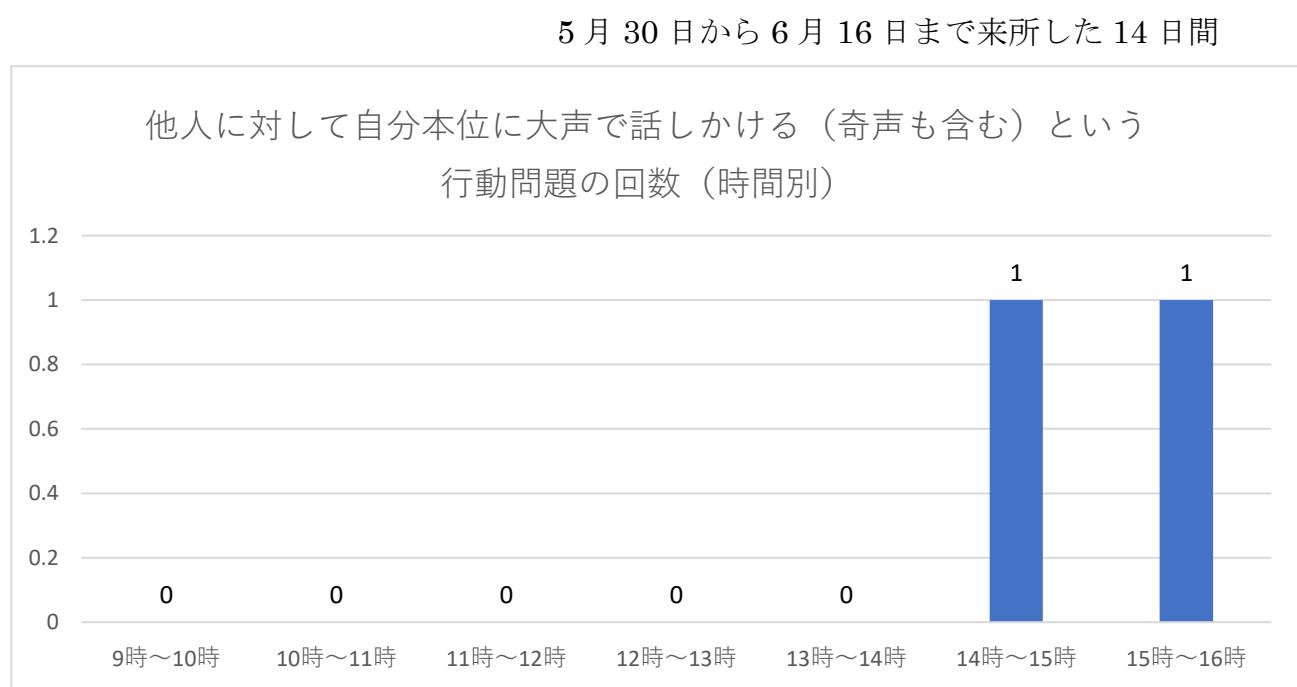
申し添えますが、H様の相手につかみかかったり引っ搔いたりするという行動問題は 5 月 30 日から 6 月 16 日まで調査した 14 日間では 0 件でした。

(別紙 1)

グラフ 1-1 行動問題の回数と時間帯の関係（14 日間）

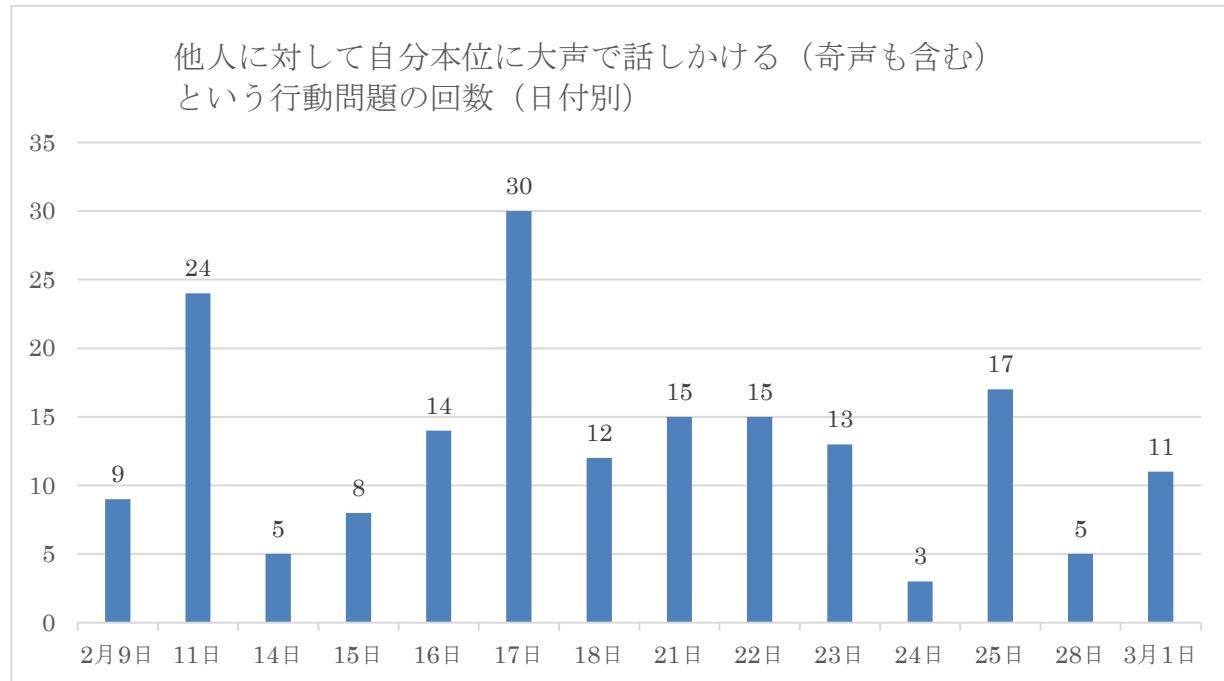


グラフ 1-2 行動問題の回数と時間帯の関係（14 日間）

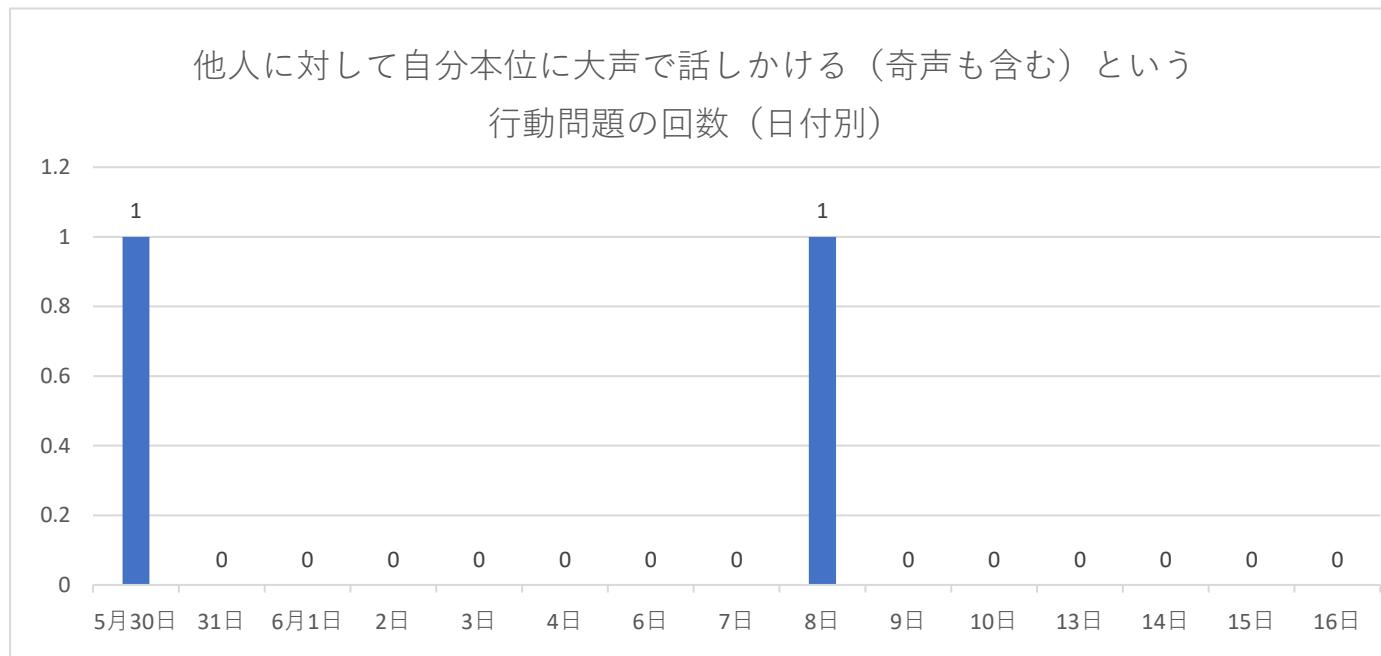


(別紙 2)

グラフ 2-1 一日における行動問題の回数比較



グラフ 2-2 一日における行動問題の回数比較



## おわりに

コスモスの支援において ASD の方々に TEACCH を取り入れたいと施設管理者に申し出てから 10 年が過ぎた。何度も試みたが理解されなかつた。5 年前頃、支援員の指導に来所したスーパーバイザーにもコスモスの支援に TEACCH を取り入れたいとの旨を相談したことがあつた。「私の施設でも TEACCH を取り入れた時期があつたが思うようにいかなかつた。」「私が相談を受けている施設では成功例はないです。」との返答であつた。おそらく当時の施設管理者やスーパーバイザーは、志が高く完璧なまでの高い目標を持っていたために筆者の技量では難しいと判断したと思っている。

それでも、なんとか TEACCH を取り入れた支援がしたいという思いは捨てきれなかつた。数人の支援員たちと細々と TEACCH プログラムに基づいた支援を行なつてはいたことは事実である。そのような折、尚恵学園内の研修でテキストとして『応用行動分析に基づく ASD の人のコミュニケーション支援 今本繁著』が使われていた。この本は ABA と TEACCH プログラムに基づいた科学的方法論をもとにしている。筆者は思わず「chance」と心の中で叫んでしまつた。年が明けて施設管理者に『施設職員 ABA 支援入門 村本淨司著』と『応用行動分析に基づく ASD の人のコミュニケーション支援 今本繁著』の本を基に H 様の支援を実践したいと相談した結果、快く「いいですよ」という言葉をいただく。

2 月から実践研究は始まつてはいたが、実践研究のことは何も知らずに 4 月に副施設管理者がコスモスに着任してきた。副施設管理者は利用者様全員の活動提示ボードを TEACCH に基づいた支援の一部である予定の見える化ということでボードを改善した。筆者は改善されたボードを見て「10 年前に、副施設管理者がいたらなあ」と頬に熱いものが流れ眼鏡が曇つたことを忘れない。

とにもかくにも、ABA（応用行動分析）と TEACCH（物理的構造化・スケジュールの可視化・視覚的構造化・ワークシステム）を駆使して H 様の奇声と他害を改善できた。支援員の方々の並々ならぬ労力と気迫に感謝したい。（\*ワークシステムは第 2 ステージで実践予定）

おわりにを書くため、PC のキーボードを叩きながら筆者が尊敬する平岩幹男医師の言葉を思い出す。平岩先生は「カナー型の自閉症療育には歴史的な背景があるものから最近になって確立されたものまでさまざまな種類があります。TEACCH、ABA、PECS、RDI、DER、感覚統合療法、太田ステージ、DTT、VB、PRT など数え切れません。私はこれらのすべてに精通しているわけではありません。どの療育方法を使うとしてもそれだけを用いて他を排除するのではなく、必要に応じていいとこ取りをすることをお勧めいたします。療育は宗教ではありませんので何かだけを信じて排他的になる教条主義は避けたいと考えています。」と話されている。さらに「どんな手法で療育をされても、臨床心理士や言語聴覚士など専門家ではない人、例えば母親が療育をされても効果がないことはありません。効果の巾の差はあってもすべて効果を示すのです。」とも話されている。

コスモスの支援員の方々は、コスモス利用者様の支援の専門家です。様々な支援の方法論をたくさん学び、皆さんで検討し、支援方法のいいとこ取りを推し進めながら、最終的には尚恵メソッドと言うブランドの支援方法が確立できることを支援員の方々と一緒に夢を見たいと思う。

## 引用・参考文献

- ・施設職員 ABA 支援入門 学苑社 村本淨司
- ・応用行動分析に基づく ASD の人のコミュニケーション支援 中央法規 今本 繁
- ・自閉症スペクトラム障害 岩波新書 平岩幹男
- ・発達障害の知識と対応 医学書院 平岩幹男